

第 2 学年国語科学習指導案

平成 18 年 9 月 28 日 (木) 5 校時
第 2 学年 男 12 名 女 9 名 計 21 名
指導者 大 澤 滋

- 1 単元名 六 だいじなところに気をつけて読もう
教材名 サンゴの海の生きものたち (光村図書・上)

2 単元設定の理由

(1) 児童について

児童は、1 学期に「じゅんじょに気をつけてよもう」の単元で、「たんぼぼのちえ」を読み、時間の順序を表す言葉や文末の語句などを手がかりに、たんぼぼの様子の変化とその理由を読み取る学習をしてきた。時間の順序を表す言葉を見付けることはほとんどの子ができていたが、文末に目をつけて、大事な文章を見付け正しく書き抜くことのできない子も多くみられた。内容への関心は高く、身近なたんぼぼの様子に関心を持ちながら読んだり、関連図書でたんぼぼについて調べたりしながら、知的好奇心を持って読み進めていた。

日常の学習の様子をみると、国語の学習への意欲は高く、繰り返し音読をしたり、読み取りや書く活動にも進んで取り組んだりしている子が多い。交流の様子については、身体表現は好むものの、進んで自分の考えを表現しようとする子は限られている。学習作業にかかる時間に個人差が大きく、すぐ取りかかることができない子や丁寧に字を書こうと時間がかかる子がみられる。

「スイミー」の教材にも興味を示し、海の底の様子など豊かに想像していたが、サンゴの海を実際に見たり、写真等で見たりして、イメージを持っている子は少ない。

(2) 教材について

第 1・2 学年の読むことにおける目標は「書かれてある事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書をしようとする態度を育てる。」である。本単元では、事柄の順序を考え、重要語句や文を見つけながら、文章の内容を理解することを扱う。

この教材文は、珊瑚礁の海に暮らす生きものたちの共生について書かれた説明的文章である。生きものにとっては暮らしにくい環境の中で、関わり合い助け合いながら生き、豊かで美しい世界を作り出していることから、自然の不思議さやすばらしさを感じさせられる。写真からも、美しい海の中に暮らす色鮮やかな生きものたちに心をひかれながら読むことができ、未知の世界である海の生きものたちについての文章の内容理解にも役立っている。文章構成は、話題提示 事例 1・2 まとめ とわかりやすい構成になっていて、事例の段落では、生物の体の仕組みとそのことによってお互いがどんな利益を得ているかについて順序よく書かれている。初めて出会う生物も多く、それらの相互の関

係の記述も少し入り組んだ表現となっているが、新しい発見をしながら親しみを持って読み進めることができる。

本単元は、「三 たしかめながら読もう」における、事柄の順序をとらえ、絵と文とのつながりを考えて文の内容を理解したり、並列に書かれた文章から文の内容を読み取って絵で確認したりする学習へと発展していく。

(3) 指導に当たって

大事な言葉や文章を見付けながら内容を理解していくために、「互いにどんな役に立ちながら、どのような関わり合いをしているのか」という問いかけの記述に着目させ、主要な生きものとその関係性を整理してとらえさせる。それぞれの生きものの体の特長や仕組みについての読み取りを確かなものにするために、その生きものになりきって体のことを説明したり実際に動いてみたりする活動を取り入れる。

サンゴの海の生きものの名前を で囲んだり、大事な文章にサイドラインを引いたりする活動を取り入れて、児童の読み取りの様子を把握していく。その際、取りかかりが遅い子や自力で読み取れない子のために、生きものの写真や大事な言葉を書いたカードを用意し、提示しながら確かな読み取りへと導いていく。

サンゴの海のイメージを持たせるために、沖縄の海の写真をたくさん用意し、興味関心を高め、読み取りにも役立てるようにしていく。「サンゴの美しい海では」とあるが、陸地ではどうだろう、身近な自然の中ではどうだろう、と投げかけ、ひろげる段階での読書活動へとつなげていく。

(4) 研究仮説にかかわって

仮説1に関わって、本単元のキーワードを「たがいに どんなやくに立ちながら どのようにかかわり合いをしているのでしょうか」とする。文章の順序にそって読み取りを進めながら、サイドラインを引いたり で囲んだりし、大事などころに気付かせていく。写真や絵のカード、大事な言葉を書いたカードを準備し、一人読みの様子に応じてカードを使い、理解を深めさせる。

仮説2に関わって、交流の場を2種類設定する。1つは、自分が で囲んだりサイドラインを引いたりして読み取った大事な言葉を確認するための交流で、2つめはキーワードについて読み取った内容を動作化等で理解を深め確認するための交流とする。どちらもペアや3人を単位に交流させ、自分たちで読み取ったという成就感を味わわせ意欲を高めていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

大事な言葉や書かれている事柄の順序に気をつけながら、海の生きものたちの関わり合いについて読み取ることができる。

〔 関心・意欲・態度 〕 サンゴの海の生きものたちの関わり合いに関心を持ち、
進んで大事な言葉を見付け、疑問や感想を持ちながら読む
ことができる。

〔 読むこと 〕 大事な言葉や文書のまとまりをおさえながら、サンゴの海の
生きものたちの様子や関わり合いについて読み取ることができる。

〔 言語事項 〕 主語と述語の関係や指示語や接続語に注意しながら、サンゴ
の海の生きものの関わり合いを正しく読むことができる。

(2) 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
・ サンゴの海の生きものたちの関わり合いについて大事な言葉を見付け、疑問や感想を持ちながら読もうとしている。	・ 大事な言葉や文章のまとまりをおさえながら、サンゴの海の生きものたちの様子や関わり合いについて読みとっている。	・ 主語と述語の関係に注意して、サンゴの海の生きものたちの関わり合いを正しく読んでいる。 ・ 指示語や接続語に気をつけて読んでいる。

4 指導計画(10時間扱い・読むこと6時間)

読みの力 育てたい		<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題提示文を見付け、本文にあった初発の感想を書いている。(関・読) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴの海の生きものの体の仕組みや生きものたちの関わり合いについてについて、興味を持って読もうとする。(関・読) ・ 大事な言葉や文章の順序に目をつけて、サンゴの海の生きものたちの体の仕組みとその関わり合いについて読み取る。(読イ) 		
活動の流れ	<p><2年> 「たんぼぼのちえ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の順序を表す言葉に目をつけて、たんぼぼの様子について読み取る。 ・ 文末表現に目を向けて、たんぼぼのちえと理由について読み取る。 	<p>「サンゴの海の生きものたち」を読んで、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴの海にはどんな生きものがいるのかな。 ・ どんな生きものたちが、どんな関わり合いをしているのかな。 	<p>学習課題に沿って、大事な言葉を見付けながら、サンゴの海の生きものたちの体の仕組みと、関わり合いについて内容を読み取り、写真を参考にしながら理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴの海の生きものたちには、どんな役に立つ体の特徴があるのかな。 ・ この体の特徴のおかげで、どんなことができるのかな。 ・ どんな関わり合いをしているのかな。 	<p>文章から学んだことをもとに、関連図書を調べて、生きものカードを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この生きものこのんところがすごいよ。 ・ 海の生きもの他にもこんな生きものがいたよ。 	<p>2年 「一本の木」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さし絵を参考にして、時間の順序にそって書かれた文章と、並列な関係で書かれた文章を比べながら内容を読み取る。
段階	事前	つかむ(2時間)	読み取る・まとめる(4時間)	ひろげる(4時間)	事後
学習活動 交流の場 留意点	<p>「スイミー」の学習で、魚や海の底の様子についてファンタジックなイメージを持つ</p>	<p>1時 全文を読み、初発の感想を書く。 2時 題名や全文から考えたことをもとに、学習計画を立てる。</p> <p>写真を見ながら、サンゴの海の様子を話し合う。 を読み、問題提示文を見付ける。 全文を読んで、サンゴの海の生きもの名前を見付ける。 初発の感想を書く。</p> <p>初発の感想の交流をする。</p> <p>サンゴの海やそこに住む生きものたちの写真を用意し、イメージをふくらませる。 子どもたちが気付いたことやもっと知りたいと思ったことを学習計画に位置つける。</p>	<p>3時 からイソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。 4時 からイソギンチャクとクマノミの共生の理由を読み取る。 5時 からホンソメワケベラと大きな魚の共生の理由を読み取る。(本時) 6時 文章の組み立てや筆者の言いたいことを大まかにとらえる。</p> <p>写真と文章を照応させて、イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。 生きものがしていることを順番に読み取り、どのように守りあっているか考える。 ホンソメワケベラの体の特徴と大きな魚との関わり合いを読み取る。 生きもの関わり合いの事例が2つ述べられていたことに気付き、筆者が一番言いたいことを考える。 見付けた大事な言葉や共生の理由について交流する。 写真を見せたりペーパーサートを操作させたりして、理解を助ける。 主語と述語のつながりや指示語に目をつけさせる。</p>	<p>7・8時 図書室で生きものについて書かれている本を探す。 9・10時 調べたことを生きものカードに書く。</p> <p>図書室で生きものについて書かれた本を探し、読む。 生きものカードを書く。 生きもの本のコーナーを作り、本のリストを子どもたちに配る。</p>	
評価規準 具体の		<p>(読) 語や文としてのまとまりや内容、響きなどに注意して読んでいる。(音読の観察) (関・意・態) 全文を読んで、文章に即した内容で初発の感想を書いている。(ノート)</p>	<p>(読) 生きものからの特徴と関わり合いについて、大事な言葉を落とさずに読み取っている。 (発言・ノート) (読) 2つの事例が挙げられていることを理解し、関わり合いについてわかったことや考えたことを話している。 (発言・ノート)</p>		

5 本時の指導

(1) 本時の目標

段落を共生の関係や理由に関する大事な言葉を見付けながら読み、ホンソメワケベラと大きな魚の共生の理由について読み取ることができる。

(2) 研究仮説にかかわって

仮説 1 キーワード「たがいに どんなやくに立ちながら どのようにかかわり合いをしているのでしょうか」について、読み取るために大事な言葉を「そうじしてくれる」「とった虫が食べもの」とし、「なぜ、ホンソメワケベラを食べないのですか?」「なぜ、大きな魚の口の中に入っていくのですか?」との問いに対して、大事な言葉を落とさずに読み取らせる。

仮説 2 本時の交流の場を以下のように設定した。

目的... ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いについて、関わり合いの様子を会話文で表しながら、生きものになった視点から読み取った内容を深める。

相手(形態)... ペアで

内容... 段落に書かれていることを順序よく読み取り、ペアで相談しながら会話文にして表す。

方法... ペープサート

(3) 展 開

段階	学習内容(発問 ・ 児童の反応)	指導上の留意点	支援	評価
つ か む 3 分	1 前時の想起 キーワードを確認しましょう。 「たがいに どんなやくに立ちながら どのようにかかわり合いをしているのでしょうか」がキーワードです。	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを確認する。		
	2 学習課題の把握 今日の学習のめあては何でしょう。	第2時に作った学習のめあてを確認する。		
	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取ろう。			

読	<p>3 学習の見通し</p> <p>写真から、どんな生きものが一緒にいるか見付けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな魚がいます。 ・ホンソメワケベラがいます。 <p>を音読しましょう。</p> <p>(・一斉読する。)</p>	<p>ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いの様子を写した写真を提示する。</p>
み	<p>4 読み取り</p> <p>を読んで、ホンソメワケベラの特徴を表す言葉に、サイドラインを引きましょう。</p> <p>(・「明るい青色の体」「頭からしっぽにかけて黒いすじが一本」「体の長さは、十二センチメートルほど」にサイドラインを引く。)</p> <p>を読んで、出てくる生きものを見付け、色鉛筆で囲みましょう。</p> <p>(・小さい魚、ホンソメワケベラ、そうじ魚を青で、大きな魚、大きな魚たちを黒で囲む。)</p>	<p>他の魚の写真とホンソメワケベラの写真を提示し、どちらがホンソメワケベラかとそのわけを聞き、特徴を確認する。</p> <p>ホンソメワケベラの体の特徴を理解することができたか。(机間指導)</p>
取	<p>なぜ、ホンソメワケベラは大きな魚の口の中に入っていくのですか。なぜ、大きな魚はホンソメワケベラを食べないのですか。大事な言葉にサイドラインを引きましょう。</p> <p>(・そうじしてくれる、とった虫が食べものになる、に線を引く。)</p>	<p>次時に大まかな段落のつくりをつかませるために、色分けしてぬらせる。</p> <p>ペアで交流する場を設定して、小さい魚やそうじ魚がホンソメワケベラであることに気付かせる。</p> <p>見付けられないでいる子には、かわり合いの写真やそうじをしている様子を描いた絵を見せながら、一緒にわけを考える。</p> <p>ペアで交流する場を設定し、短く言葉で表現できるように促す。</p> <p>2つの大事な言葉にサイドラインを引くことができたか。(机間指導)</p>
る	<p>5 交 流</p> <p>ホンソメワケベラと大きな魚がおたがいにどのように助け合っているか、どのようにかわり合っているか、ペープサートを使ってお話をしてみましょう。</p> <p>(・ペアで役を決めて、会話形式で劇をする。)</p>	<p>ペアごとにペープサートを用意する。</p> <p>会話の数を増やすよう声をかける。</p> <p>読み取ったことから、「役に立つように」を意識した会話ができただか。</p> <p>(机間指導)</p>

<p>3 5 分</p>	<p>発表しましょう。 (・代表のペアが発表する。) 例) 「大きな魚さん。口の中のお掃除にきました。」 「お願いします。あーん」 「きれいになったよ。ありがとう。」 「ぼくもとった虫を食べて、おなかがいっぱいになったよ。ありがとう。」 お互いがいなかったら、どうなるのでしょうか。 ・ホンソメワケベラがいないと、大きな魚の口の中が汚くなって困る。 ・大きな魚がいないと、ホンソメワケベラは食べものがなくて生きていけない。</p>	<p>お互いに助け合って生きているのが伝わるような会話をしていたグループに発表させる。</p> <p>お互いに助け合って生きているのが理解できるように、それぞれの生きものの果たす役割や必要性を実感させたい。</p>
<p>ま と め る</p> <p>7 分</p>	<p>6 学習のまとめ 今日の学習をまとめましょう。</p> <div data-bbox="352 1240 1342 1352" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ホンソメワケベラは、大きな魚の口の中をそうじします。 そうじをしてとった虫が、食べものになるのです。</p> </div> <p>今日の生きものたちの関わり合いを読み取れたか、 をつけましょう。友だちのペープサートを見て、わかったことやがんばっていた友だちについて書きましょう。 (・発表する。)</p> <p>7 次時の予告 次の時間は を読んで、もとかわさんの伝えたかったことを考えましょう。</p>	<p>学習プリントに書かせる。</p> <p>こうしてお互い助け合っていることを補足する。 「そうじしてくれる」「とった虫が食べもの」を落とさずにかかわりをまとめられたか。(プリント)</p>

(4) 評 価

評 価 目 標	具 体 の 評 価 規 準		
	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する 児童への手立て
<p>ホンソメワケベラと大きな魚がおたがいに役に立っているかかわり合いを読み取ることができる。</p>	<p>「そうじしてくれる」「とった虫が食べもの」という大事な言葉を落とさずに、かかわり合いをまとめ、その様子を豊かに表現している。</p>	<p>「そうじしてくれる」「とった虫が食べもの」という大事な言葉を落とさずに、かかわり合いをまとめている。</p>	<p>大事な言葉を見付けられない子に対しては、写真を提示し、一緒に何をしているところか考える。 ペアで様子を表現できない子には、吹き出しのついたカードを与え、一緒にどんな会話になるか考える。</p>

(5) 板書計画

大きな魚

そうじしてくれるからだよ。

なぜ、ホンソメワケベラを食べないのですか。

ホンソメワケベラ

そうじしてとった虫が、食べものになるからだよ。

なぜ、大きな魚の口の中に入れていくのですか

大きな魚

ホンソメワケベラのかかわり合いを読み取るう。